

〔科目名〕 キャリア形成論		〔単位数〕 2 単位	〔科目区分〕 キャリア教育科目
〔担当者〕 福原 忠之 Fukuhara Tadayuki	〔オフィス・アワー〕 時間: 場所:		〔授業の方法〕 ・講義
〔科目の概要〕 将来に向けて自分の「キャリア」をしっかり考えよう！！ ・「キャリア」を辞書で調べると、「職業・生涯の経歴」と書いてある。一般的には、職業資格や職業経験を意味するものと考えられるが、もっと広い意味でキャリアを捉えることが必要である。職業生活、家族や友人などの人間関係、地域コミュニティでの暮らし、学び、趣味など、社会の一員として、自分の能力を発揮し、自分自身の人生を見つめ、実現したいことをはっきりさせ、経験を積み重ねること。また、「自分らしい生き方」という観点でキャリアを捉えれば、上昇指向が強いとか、スローキャリアとか、自分に責任を持って行動すればいろいろあってもかまわない。つまり、自ら主体的に考え、試行錯誤を伴いながら行動し、努力を重ね、生涯を通した人生のプロセスこそが「キャリア形成」である。 ・近年、労働市場は売り手市場になっているが、この追い風の状況に油断してはいけない。今年は新型コロナウイルス感染症が経済に大きな負の影響を与えているが、このような予期していない出来事に左右されることのない、社会から評価される実力を身に着けることが重要なのである。可能性は、努力をする者を拒まない。これからの「自分らしい生き方」を見出すためには、どのような知識、能力を身につければ良いのかを考え、実践する事が不可欠となる。 ・自立した個人としてのキャリア形成のお手伝いをするのが、この講座である。私たちを取り巻く環境は、大きく変化してきており、このような現状を踏まえ、社会経験豊かな実務者の視点からの職業情報等の提供が、この授業の特色である。			
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 ・半年間の授業を通じて、「自分らしい生き方」を自ら発見すると同時に、自分の置かれている状況を客観的に把握し、職業生活に連なる前段階としての「インターンシップ」の課程への橋渡しと位置づけられる。 ・そのために必要なのが、的確な職業情報の提供であり、この授業の目的のひとつである。青森公立大学の特色ある講座として就職活動・職業生活への動機づけを図り、卒業後社会に出てから評価され、その組織の中核を担う人材になってもらうことがねらいである。			
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 ・自分を見つめる基本は、自分自身の頭で考えることから始まる。講師はあくまでもキャリア形成のアドバイス役にすぎない。講師の役割は、適切な職業情報や労働市場等の情報の提供である。それをどのように職業選択に活かすのかは本人の判断であり、その取り組み方によって結果は様々であり、結果責任を伴うものである。 ・職業選択とは、自らの人生に対する価値観を具体化することと、変化への挑戦である。したがって講師の価値観を押し付けるものではないし、正解はない。将来の自分の人生に悔いを残さない選択のための情報提供であり、また、主体的に、生き方や働き方を検討する為のサポートである。 ・単なるイメージやうわさ話、ネット等の不確かな職業情報、古い職業感覚によって、進路選択を誤ることがあってはならない。また、企業のパンフレットやホームページの内容をそのまま鵜呑みにしてはならない。絶えず、「なぜ、なぜ、なぜ」と疑問を持ち、原点に立ち戻り自ら確認すること。そこから問題意識が生まれ、判断力が磨かれる。そのような行動が、自分を見つめ自らを高める第一歩なのである。大学生活の4年間は自分自身への投資の期間、最終的には卒業後、社会人として職業生活に入り、一人前の人間として独り立ちすることが目標である。			
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 ・理解を更に深めてもらうために、重点ポイントについては、全体の講義の構成の中で、繰り返し説明を行う。 ・配布資料の中で、重点ポイントについては大文字等で表記する等、記憶に残るように工夫をする。 ・各回の講義の関連を明らかにし、具体例を提示する等して、はっきりわかりやすく興味が深まるよう説明する。			
〔教科書〕 ・テキストは使わない。毎回、講義資料を配布する。			
〔指定図書〕 ・必要に応じ、講義時に提示する			
〔参考書〕 ・必要に応じ、講義時に提示する。			

〔前提科目〕 なし。	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) ・正解のない領域なので、評価は、自分の考えをしっかりと持って講義の中に入り込み、レポート等で考えや意見を的確にわかり易く表現できるかどうかを重視する。質問した時は、積極的に自分の意見を発信していただきたい。 ・社会人となるための授業であるので、大学生の常識ではなく、社会人としての常識を、評価の基準とする。したがって講師は会社、役所の人事部長になったつもりで評価する。具体的には、まず講義に出席する(理由があつて欠席する場合はきちんと手続きをする。)、遅刻はしない(基本は5分前に席につく)、授業中の帽子着用や私語などは原則認めない等、要するに、一般的な社会人として同様に扱い、基本的マナー等をベースとして評価する。また、レポートは、自分の意見、考えをはっきり表明することや、質問のねらいを理解しわかり易く表現することが評価に繋がる。 ・出席は重視する(無断欠席の場合は出席の評価点から差し引く)。授業の中身を理解しようとせず、別なことを考え座っているだけでは出席とは認めがたい。また、レポートは提出がなければ評価は0点(評価のしようがない)であり、原則指定した時間のみ受け付け、それ以外は受け付けないこととする。 ・試験とレポート等の提出(70)と、授業への出席・参画(30)とし、合計100点で総合的に評価する。	
〔評価の基準及びスケール〕 ① 授業態度(出席状況等) ② 評価対象レポート(講義の中での提出、及び宿題での提出、複数回実施) ③ 最終レポート(定期試験)を総合して評価する。 A:80 点以上 B:80 点未満 70 点以上 C:70 点未満 60 点以上 D:60 点未満 50 点以上 F:50 点未満	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 授業中の私語、スマホ等、他の受講者の迷惑となる行為は厳に慎むこと。大学生としての最低限のマナーは守ってもらい、顕著な場合は退出してもらふ。講義開始時間に遅れない等、当り前の常識・良識を身に付けることは、近い将来社会人になった時必ず役に立ちます。他の授業では認められていても、社会人として通用しないことは、この機会にははっきりした態度で対応しますので、本人にも認識してもらい、社会人となった時に困らないようにしていきたい。 社会に出るまでまだまだ時間があると思わず、正面から授業に取り組み、大学4年間主体的に学ぶことを求めます。自分自身で考え、受け身にならず、将来を視野に入れながら、柔軟に幅広い分野に興味持って挑戦してください。	
〔実務経歴〕 製造業(主に人事、教育、採用等)での実務経験を活かし、これからの「自分らしい生き方」知るために、どのような知識・能力を身につければ良いのかを考え実践することを学ぶ、サポートを致します。	
授業スケジュール	
第1回	テーマ(何を学ぶか): キャリア形成入門 内 容: キャリアとは何か? 時間の流れを意識し、キャリア形成のプロセスや、取り巻く環境等の関係を考え行動する大学の4年間は、自分自身に投資する期間であることを、しっかり認識する。 同時に、大学入学以前の自己や現在の自己を振り返り、入学して半年が経過した時点で、改めてこれからの大学生活、自分自身の将来について考えてみる。
第2回	テーマ(何を学ぶか): キャリアの形成の要素 内 容: :キャリア形成は、自らの努力、いろいろな経験を重ねながら少しずつ進展させていく。 大学の4年間で身に付けるべき知識・能力(社会人基礎力等)と、大学生活の中でのキャリア形成の関係を、先輩のメッセージ等を参考にして、実務者の観点から解説する。
第3回	テーマ(何を学ぶか): 大学生のキャリア形成の現状と課題・キャリアデザインの実行 内 容: 大学4年間のキャリア形成に関し、必要な事柄、課題を、実務者の観点から解説する。 同時に、現在の自分の位置づけを認識して、自らのキャリアデザインを考え、纏めてみる。

第4回	テーマ(何を学ぶか):キャリア形成と資格 内 容: どんな資格があるのか? 資格と職業との関係、資格と就職の関係、資格があれば有利か等? キャリア形成と資格、身に付けるべき知識と能力等について考え、計画を再度纏める。
第5回	テーマ(何を学ぶか): 労働市場の現状 内 容:変化が大きい労働環境・労働市場の現状を考察し、大学生の置かれている立場を明らかにし、就職活動も意識して今後の展開等を考える。 労働市場の特質と変化、雇用契約、終身雇用制は変化したのか? コロナ後の働き方とは等。
第6回	テーマ(何を学ぶか):入社後のキャリア形成(社員教育など) 内 容:会社の具体的な教育プログラムを例に、卒業後これから何が必要なのかを考える。 労働市場の特質と変化、会社が求める人材等、今後の展開について検討を加える
第7回	テーマ(何を学ぶか): 公務員のキャリア形成① 内 容:行政機関の仕組み、仕事の種類、知識、現状の課題などを認識する。 具体的な地方自治体を例に、公務員の役割使命、就職後のキャリア形成に検討を加える。
第8回	テーマ(何を学ぶか):公務員のキャリア形成② 内 容:「踊る大捜査線」に見る警察官の仕事役割、組織等から、組織の一員としての公務員を考える。
第9回	テーマ(何を学ぶか):メーカー(製造業)でのキャリア形成 内 容:メーカーでの仕事や役割を、物作りの現場、工場勤務を中心に具体的に検討を加える。
第10回	テーマ(何を学ぶか):金融機関でのキャリア形成 内 容:地方銀行を中心に金融機関の仕事や役割を、具体的な事例を参考に検討を加える。
第11回	テーマ(何を学ぶか):流通業、販売会社(商社・小売等)でのキャリア形成 内 容:販売会社等の仕事や役割を、具体的な事例を参考に検討を加える。
第12回	テーマ(何を学ぶか):キャリア形成と自己の行動分析・自己理解 内 容:自分自身を振り返り、自分の特質を認識し、キャリア形成の基点を再認識する。 社会人として求められる能力を再整理し、自己を見つめなおし、自分自身の行動分析を行う。
第13回	テーマ(何を学ぶか):自己を振り返り、職業選択を考える 内 容:自分自身の行動分析をベースに、働くことの意味を考える。仕事に求めるものは? また、就職先を決める時、どのような要件を優先するか。やりがい、働きやすさ、給与水準等、自分の判断基準、評価内容は何かを考える。自分の中の決定プロセスを整理する。
第14回	テーマ(何を学ぶか):キャリア形成における大学での就職活動の位置付け 内 容:就職するにあたり、これから何をすべきか? 社会(求人側)が求めているものは何かを考察する。 就職活動の進め方、先輩たちは、どのような就職活動をしてきたか等、プロセスを理解する。
第15回	テーマ(何を学ぶか):キャリア形成纏め 内 容:職業選択における志について。先人の事例を参考に、自らのキャリアデザインを再考する。 自らの進路方向を明確にし、学生時代、しっかりとキャリアを積み重ねる必要性を考える。
試 験	筆記試験の実施、(定期試験の日程で実施)